

四日市版コミュニティスクール報告書（令和6年度総括）

四日市市立富洲原小学校
校長 宮田 毅

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

- ① 開かれた学校づくりをめざし、地域・保護者とともに協働できる学校にするために協議会を設置し、様々な視点からの意見や考えを交流し合いながら、地域コミュニティづくりを推進します。
 - ② 教育活動を学校評価に基点を置いたものとします。そのために、これまでの学校関係者評価をより充実させ、改善に努め、保護者や地域の方々の思いを反映した学校づくりを推進します。
 - ③ 学習支援をはじめとして、様々な教育活動に保護者や地域の方々との活動を継続・発展させ、「地域とともにつくる学校」の推進を図ります。
- ※ これまでの「学びの一体化」の成果を活かしつつ、小中一体となって保幼もまきこみながら、地域とともに子どもを育むことを目指します。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践事例

① 地域に学び、地域を愛し、地域に貢献する生徒の育成

☆避難訓練

学校では、学期に1回以上の避難訓練を実施し、避難経路等の見直しを行った。

避難訓練の際も、火災の設定、地震の設定、津波の設定など、さまざまな状況に対応できるように行っている。今年度は、保育園・保育園とも一緒に避難訓練を行った。

☆富洲原地区自主防災隊

4年生が富洲原地区自主防災隊のみなさんとともに「合同研修」という形で学習会を開いた。担架がなかったときに代用品を利用して人を運搬するやり方、消火栓の確認、ロープの結び方など、いざとなったときに、子どもたちができることをするという意識が持てるように取り組んだ。

☆富洲原地区消防団

地区で活動している消防団に来ていただき、火事のときにどのように活動しているかを教えてもらった。さらに、どのような思いをもって活動しているかも聞かせてもらった。

上記のような活動を通して、人と出会い、その出会いを通して、自分たちの住む富洲原地区を愛する子どもたちの育成を行ってきた。

②地域人材、外部講師、保護者を活用した教育活動等

教科教育・キャリア教育・人権教育・図書ボランティア

☆外部講師(CS 委員長伊藤さん)⇄教科学習

伊藤さんが以前理科の教員であったこと、現在、大学で専門的に教えていらっしゃるということで、外部講師として理科の授業を行っていただいた。顕微鏡を使ってメダカの卵を拡大したことで、卵の中で心臓が動く様子、尾びれを使って動く様子等が観察できた。教員にとっても子どもたちにとっても深い学びとなった。

☆外部講師(反差別・人権教育所みえ) ⇨人権教育

人権について、反差別・人権研究所みえの松原さんと、日常における人権について考えた。オンラインを通して、他校の児童と意見を交流できたことで、考えが広がったり深まったりした。

☆外部講師(日本福祉大学・非常勤講師) ⇨四日市公害

四日市公害の歴史や、当時の富洲原地区の被害について教えていただいた。当時を知り、さらに詳しく研究されている方からの話を聞いたことで、児童がより深く四日市公害について考えることができた。

☆外部講師(四日市大学4年バザガイさん) ⇨国際理解教育

ネパールにルーツを持つバザガイさんの、今までの学びや今後の夢について語っていただいた。日本で暮らし、就職が決まっている方からの話を聞くことで、外国にルーツを持つ6年生の2人の学びになった。

③保護者を活用した教育活動

☆図書ボランティア

保護者の方10名程度で年間を通して、図書ボランティアの活動をしていただいている。図書館の環境整備や読み聞かせなど、本校の読書推進のために尽力いただいている。図書室の壁面も季節ごとに工夫を凝らしてあり、開かれた図書室となっている。

☆水泳ボランティア

着替えの際、教員だけでは困るところを保護者に見守っていただいた。大人の目があることで、安心して着替えをさせることができた。また、持ち物等の声掛けをしてもらったことで、移動がスムーズにでき、授業時間を確保することができた。

☆ミシンボランティア

一人の家庭科の専科だけでは対応できないところを保護者に呼びかけ、多数授業の協力に来てもらった。壊れたミシンの対応などをしていただき、子どもたちの学習(作業)時間を確保することができた。

以上のように、地域や保護者に協力いただき、ともに子どもたちの育ちを見ていけるようなシステムを今後も作り上げていきたいと考えている。

(2)「三錨CS運営協議会」の取り組みによる効果

今年度も「四日市版コミュニティスクール」の委託を受け、地域・家庭・学校が一体となった学校づくりを目指し推進してきました。授業参観や各行事を通して、授業の様子や掲示物などから生徒の取組を見ていただくことができた。また、夏祭りや総合防災訓練など様々な地域行事や活動を通して、地域とともにある学校という認識をより一層深めることができた。

富洲原地区は、小中合同でCSを行っており、三錨CS運営協議会において、小中学校だけでなく、保育園・幼稚園・児童館などの様子などについても交流している。会議でいただいた意見を共有することで、地域の子どもたちを地域で育てていくという視点を大切に、本年度の活動を振り返り、次年

度にかかしていきたい。



3 今後に向けて

三錨C S運営協議会において、次のようなご意見をいただいた。

◆「保幼小中の連携」

学校だけでなく、北部児童館でなわとびを通して学年を超えたつながりがあった。また夏祭りで小中の子たちのつながりが見えた。各校園で連携して、温かく良い雰囲気を継続してほしい。地域と学校が一体となって、子どもたちの成長を見守りたい。

◆「ベーシックの活動」

基礎基本の力を付けてもらっている様子が分かった。成績等にすぐに反映されないもので、子どもや保護者の評価はあまり高くはないが、大切な力なので学校が説明して続けていくとよいのではないか。

◆「なかまづくり・楽しい学校生活」

全体的に学校生活は落ち着いて取り組めており、また挨拶ができる子が多いと感じた。

とみすはらの子は、優しい子たちが多く、授業の中でもお互いがお互いを理解し、配慮している場面がみられた。

◆「自由購入品・学校指定物品」

学校は小中共に保護者負担を減らす方向で考えている。地域としても負担軽減をしていってほしい。

終わりに…

今後も、四日市版コミュニティスクール推進に向けての取組を検討し、様々な視点からの意見や考えを交流し合いながら、地域コミュニティづくりを推進していく。

コミュニティスクール推進のために、保護者の方々だけでなく地域の方々にも、様々な情報を適切に発信していく必要がある。今後も学校ホームページでの情報発信をはじめ、地域に情報発信をしていく。

これからも、地域の人・場所を活用させていただきながら、目指す生徒像に向かって、地域とともに取り組んでいきたいと考えている。

別紙B

令和6年度四日市版コミュニティスクール活動報告

四日市市立富洲原小学校

委員長 伊藤 敏彦

校 長 宮田 毅

月	協議会の開催	活 動 内 容
4		
5	第1回運営協議会(中)	委嘱・学校づくりビジョン説明・承認
6	第2回運営協議会(小)	小学校授業参観・意見交換会
7	第3回運営協議会(中)	中学校授業参観・拡大意見交換会
8		
9		
10		中学校体育祭参観
11	第5回運営協議会	中学校文化祭参観
	第4回運営協議会(小)	小学校運動会参観
12		
1	第6回運営協議会(小中)	小中授業参観
2	第7回運営協議会(中)	学校関係者評価
	第5回運営協議会(小)	6年生を送る会参観
3		